連　載

経済指標の窓　<第 3 回>

海外経済指標③　購買担当者指数

岡山　正雄

海外で注目度高い購買担当者指数

日本ではまだ一般的ではないが、他国では注目度の高い指標に、英調査会社 Markit Economics が開発し、現在 21 の国と地域で公表されている購買担当者指数(Purchasing Managers　Indices。以下、「PMI」という)がある。

PMI は「製造業」、「非製造業」、「建設業」「小売業」の 4 業種について、調査対象企業の購買担当部門にアンケート調査を行って作成される(注 1)。アンケートの質問は業況に関する各項目について「改善」、「同じ」、「悪い」の 3 択で回答するようなっている。この 3 択のそれぞれの割合を求め、改善には 1、同じには 0.5、悪化には 0 をかけて加重平均し季節調整をしたものが各項目の指数となる。さらに「新規受注」、「生産高」、「雇用」、「供給者の納期」、「購買品在庫」の 5 項目の指数を加重平均したものが PMI である。

なお PMI は全員が全項目「同じ」と答えれば 50 となるので、PMI が 50 を上回れば業況の改善、下回れば悪化を示す。

(注 1)PMI 製造業は 21 の国と地域全てで公表されているが、残りの業種は一部の国と地域のみ公表。

PMI の特徴

PMI には次のようなメリットがある。

第一にそれぞれの国・地域が用いる質問項目が統一されているため、特段修正を施さなくても多国間比較が行える。

第二に速報性である。他の経済指標は前月分の発表に数週間程度要するが、PMI は翌月第一営業日に発表される。このためいち早く前月の経済状況を掴める。

第三に事実に基づいた指標という点である。アンケート項目の回答は景況感などの心理的要因に基づくものではなく、前月比での変化など客観的なデータに基づいたものが求められている。このため、PMI と他の関連指標との乖離が少なく、実態に即した結果が出る傾向にある。特に多くの先行研究によれば PMI は鉱工業生産伸び率や GDP 成長率との相関が高いという結果が出ており、PMI の速報性と相まって、その有用性を高めている。

中国に見る鉱工業生産の先行きと PMI

PMI は中国では最近特に市場の注目度が高いと言われている。そこで図表 1 には中国の鉱工業生産と PMI 製造業の推移を示した。これを見ると両者が似た動きをしていることが分かる。なお中国の場合は PMI 製造業が翌月第一営業日、鉱工業生産が翌月中旬に発表されるため、PMI 製造業を見れば、2 週間ほど早く前月の鉱工業生産の動向を知ることができる。足元の PMI 製造業の動きを見ると、一貫して 50 を上回る水準が続いており、ここから判断する限りでは中国の好調な鉱工業生産の伸びは当面続くと言えそうである。

図表1:中国のPMI製造業と鉱工業生産の推移

(資料) Bloombergより農中総研作成

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます